

豊庄だより

福岡市早良区南庄2-26-13

社会福祉法人林生会豊庄保育園

園長 西尾 達

第766号 2023年7月18日

今週号では7月7日におこなった誕生会懇談の内容をご紹介します。今回も相談時間が足りなくなるほど皆さんから相談がありました！いくつか取り扱えなかった議題もあるのでフォローが出来ればと思っています。



①トイレの相談～トイレで排便できない。おむつだとできるがトイレに座っても便が出ない。～・ちょっとしたきっかけで、できるようになることもある。うまくいった経験やうまくいかなかった経験等も。・体勢の問題もあるかもしれない。ちょっと前傾姿勢の方が、便が出やすい。・排便に対して安心感を与えることも大事。おむつのまま便

座に座ってするなど、少しずつ便座に慣れさせると良いのかも。・無理に移行して、パンツに漏らすと恥ずかしくて便秘になってしまうこともある。～便秘対策を教えてください。薬を嫌がる～・乳酸菌を取らせたりした。・運動の習い事を始めると改善した。・水分を多めにとって便が固くならないようにする。食物繊維を取りすぎると便が固くなる。・発達や個人差による影響も大きい。気長に。

②歯みがきを嫌がる・お風呂が良いか歯みがきが良いか選ばせる。(専門用語でいうと選択話法:まるで自分で選んだように錯覚させる。どちらを選ばれても良い結果が得られる。)・好きなキャラクターの歯ブラシにしてみる。・電動歯ブラシにすると新しいおもちゃのように興味を持ってくれて、歯みがきをし始めたりする。・口の中に物を入れることに慣れていないかもしれないので、赤ちゃん用のブラシから慣れさせても良いかもしれない。・慣れるまではつきっきりで、一緒に歯ブラシを握って歯を磨いてあげると、磨く感覚や磨き方がわかるかもしれない。

③イヤイヤ期～登園時のイヤイヤがひどい。～イヤイヤが始まったので対策を聞いておきたい。～・自我の芽生えや知能の発達に伴って必ず経験する物なので「まあ今日はいいか。」と受け止め見守ることも大切。・親が家にいることを子どももなんとなくわかっているの仕方ない所もある。登園渋りは「母親が良い」という関係が出来ている証拠でもある。～思春期の女子のように父親を嫌がる。～調べたところ、父親だけを嫌がるのか、男性を嫌がるのか、母親以外を嫌がるのかなどによって対処法が違うようですが、イヤイヤ期の時期にはよくあることだそうです。お母さんとの接触時間がお父さんとの接触時間より長いことによって起こるようなので、お父さんだけで一緒に過ごす時間を長くすると改善することもあるらしいです。

④言葉に関する相談～吃音が見られる。～吃音は多くの場合、成長するにつれて小学生高学年ごろには多くの子が治ります。また吃音の程度にも非常に大きな個人差があります。話すことに恐怖感を覚えないように環境づくりや周囲の協力、聞く心構えが大切です。(図書室の本棚の真ん中の段の一番右に、園長がまとめた吃音に関する新聞の連載がファイルしてあります。良かったら読んでみてください。)～言葉遣いが悪い～悪い言葉を使うことによってどうなるのかを教えるのが良いと思います。(先々週の豊庄だより764号の裏面に詳しく書いてます)

⑤きょうだいに関する相談～上の子の癩癩～小さい子は理性をつかさどる脳の前頭前野の発達が十分ではなく、気持ちのコントロールが難しいのは仕方ない所もあります。癩癩はストレスに対処する反応でもあるので無理矢理止めない方がよいです。できることならストレス源を取り除いてあげるのがよいです。「アンガーマネジメント」を教えるという方法もあります。会話や交渉などのやり取りによって前頭前野は発達するので、日々の会話を更に増やすのも良いと思います。～妹という立場を利用して、姉に甘えるなどずるがしこい事をするようになった～賢くなった証拠でもあります。詳細が把握できていないので突っ込んだ話はできないので、一般的な話をします。度が過ぎないのであれば甘えさせてあげて、その後お姉ちゃんに「代わりにやってくれてありがとう」とフォローしてあげてください。また妹が自分でやった時には大いに褒めてあげてください。モチベーションに繋がります。

気持ちの表明が群れに必要な理由

生物が生き残るために群れが大事とはいえ、群れを構成するのは個体です。個体をないがしろにしていいいわけではありません。群れのリーダーは群れの維持のために個体の負荷の調整をしなくてはなりません。しかももちろん個体差があり、負荷のかかり方もバラバラであり、その調整は困難を極めます(だからこそ人間のリーダーである



7月誕生者の晴れ舞台

政治家や社長の給料は高くなるのですが…)。その調整を楽にしてくれるのが個体ごとの気持ちの表明です。「今きつい」「そのうち大変になりそう」こういった意見は本来群れの維持をスムーズにする良いものです。解決できれば群れがより良くなりますし、解決すべきでない事であれば、それを説明し個体を納得させる手掛かりとなります。(群れを「集団」、個体を「個人」と読み替えると現代人に当てはまる話になります。)

「意見は本来良いもの」と書いたのは、人間の場合はそれが虚偽や欺瞞だったりするからです。人間は知能が発達しているので嘘をつくことが出来ます。そのため負荷の程度を見極めるのが難しかったり、嘘をつくことそのものが目的になっていることもあるので、そもそも取り合ってはいけない場合もあつたりするなど判断は難しかったりもします。(嘘は完全に悪い物というわけではなく、人間が手に入れた高度な交渉方法で、

本来は有用な手段なのですがこの話はまた後日。)

でも意見が嘘かどうかの判断が煩わしいからと言って、リーダーは意見を封殺してはいけません。その煩わしさの見返りは給料や報酬や立場という形で貰っているはず(貰っているからと言って何をされても良いわけではないのがまた難しいのですが…リーダーもまた群れの一部であり構成しているのはただの個体ではあるので。)。また意見を封殺すると個体の能力の低下・個体の損失を引き起こします。弱っている個体が見分けられずケアできないからです。以前話した通り弱い個体でも簡単に見捨ててはいけません。動物の群れであればその方が正解ですが、人間の高度な文明社会であれば不正解です。

皆さんも気持ちを意見として表明してってください。リーダーがこのあたりの理屈を分かっている人であれば、適切に意見を言うほど組織がより良くなっていくはず(そうじゃなかったときは…)。もちろんその表明に虚偽や欺瞞を(多くの場合は)



7月誕生会懇談の様子

交えてはいけませんし、感情と理屈は分けて考えながら言わないと、リーダーからの説得も受け入れることが難しいものになってしまいます。素直に過不足なく必要なだけ意見を伝えていきましょう！

「でも自分の気持ちを言わなくても自分の損だけだから良い」と思っていないですか？ここまで話してきたように、大きな視点で見ると実は全体にとっての損になっています。とはいえ人間には感情がありますから、そんな合理的に動くのは難しく、意見を言うのは内容や場合によってはかなり勇気がいるものです。合理的な相手ならば合理的な反応が返ってくるので言いやすいことも多く問題ないのですが、全員がそうとも限りません(昔痛い目をみました)。理屈と感情の両輪をうまく回していきたいものです。生態系という合理的なシステムから外れた人間だからこそ、理性によって合理的に動いていきたいものです。

今回は表面裏面共に副園長が書きました。相変わらず教科書や新聞記事みたいな書き方になって申し訳ないのですが、私が普段考えていることを書いていますので、どれかが少しでも皆さんのお役に立てればと思います。